

#### (四)「大寺谷」

東林木町の「大寺谷」は同地区内に「大寺薬師」が建立されている関係から付けられた地名と考えられます

その「大寺薬師」の初見は、雲陽誌に推古三年（五九五）「大寺薬師」と記述されております。

伝承では、智春上人によって創建され、奥の院浮浪の霊山（鰐淵寺）の不老滝から湧き出した霊水で推古天皇（五四～六四五）の眼病平癒を祈祷し快方させたと言われています。

文献はありませんが、おそらくその時代に権力を振るっていた聖徳太子の助力によって、七堂伽藍がらんの「大寺」が創建されたのではないのでしょうか。

また、一説では、天平一三年（七四一）僧行基が諸国巡歴の途中「大寺」に留まって薬師如来を初め多くの仏像を刻み、金堂（七間×一二間）、阿弥陀堂、釈迦堂、観音堂、七重大塔等を建て、諸仏を安置し護国の道場としたとも言われています。

現在・僧行基の作と言われる仏像（薬師如来坐像・脇待菩薩立像・四天王立像）が国指定の重要文化財として収蔵庫に祀られています。

往時の「大寺」は現在地より数百メートル奥の通称「広瀬」ひろせ

にあったと言われていますが、慶安三年（一六五〇）大洪水による山崩れのため寺堂、仏像の多くが破壊、埋没しました。

その後住民達が、薬師如来坐像ほか残存の仏像を集めて、現在地の万福寺境内に三間四面の薬師堂を再建し収納しました。

また「大寺薬師」の裏山、通称大寺山には大寺古墳（出雲市指定文化財）があります。

築造は西暦三〇〇～四〇〇年ごろの古墳時代に建てられ、山陰地方では最も古い前方後円墳です

